宗像

皇太子殿下 東京・出光美術館へ行啓

九月二十二日、宗像大社国宝展を御観覧

皇太子殿下におかれましては、九月二十二日、東京・出光美術館にて開催中の特別展「宗像大社国宝展」を御観覧なりました。昨年七月四日の当大社への行啓に続き、宗像大社が培ってまいりました歴史の足跡につきまして、深い関心をお示しいただきましたことは、誠に恐懼の極みであり、関係者一同、今後の神社奉護に向けて心を新たに致した次第です。

当日は、午後二時、帝劇ビル地下へ御召車が到着され、大和宏康同館々長代理の御先導により、九階の出光美術館へ御移動。ロビーで、出光昭介同館館長（出光興産名誉会長、当大社責任役員）と宮司が奉迎、大和館長代理の御先導により、展示室へお進みになりました。

出光館長と宮司より、説明補助の八波同館学芸課長代理、福嶋・河窪 両当大社学芸員を紹介申し上げ、宮司の先導及び説明により、大和朝廷が国家祭祀で奉献した沖ノ島神宝、中世の宗像郡の領主・神

平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

余滴

このほど、高円宮家の次女典子さまと出雲大社宮司の長男千家国麿氏とのご結婚が発表され、今秋（十月五日）、出雲大社で結婚式が行われることになった▼典子様は昭和天皇の末弟、三笠宮殿下の三男、故高円宮殿下の次女としてお生まれになった。一方、国麿氏は天照大神の子天穂日命とその子孫が代々出雲に仕え祭祀を司っていた。これを国造家といい、その子孫である▼出雲大社は古代から伊勢の神宮と並ぶ大社として信仰を集め、昨年五月、六十年に一度の御遷宮が行われた。主祭神の大国主神は大物主神、大己貴神、八千矛神など異名が多い。国津神の代表であり、国土の開拓にあたった英雄神である。天孫降臨に際し国土を天津神に譲りその代わりに宮殿が建てられたとされる神話「国譲りの神話」が、出雲大社の起源とされている▼記者会見で国麿氏は「二千年を越える時を経て今日を迎えたことに深いご縁を感じている」と述べられた。歴史的に御縁のある御二方が御結婚されることは大変意義深いことであり、まるで神話の世界を見ているかのようである▼出雲では十月を神有月と称し、全国の神様が集う。まさに神様のお導きなのではなかろうか。（杉）

神具・装束・授与品 井筒
装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目1-20 電話(0940)32-2567

主として隆盛を極めた宗像大宮司家の動静や宗像三女神への信仰の様子を記す文書、近世の福岡藩主黒田家の崇敬を物語る文物など、当社神宝の数々を御覧戴きました。

沖ノ島国家祭祀の展示では、古代の希少な真珠玉をはじめ、朝鮮半島や中国大陸諸国との活発な国家外交を反映する金銅製馬具や金銅製龍頭、神宮の御神宝につながる金銅製帯金具や金属製雛形品などに感心を示されました。

中世の宗像大社の展示では、御専門である中世の交通史、流通史に関連する『宗像宮創造記』、宋人との交易や婚姻などによって磨かれた宗像大宮司家の国際感覚がうかがえる『問注所執事・奉行人連署問状案　沙弥浄恵請文案』、神仏習合時代の宗像大社の神官・僧官の構成や序列が知られる『宗像大神宮神官・僧官・御灯衆等連署起請文』、鎌倉時代に成立した宗像大社の社内法『宗像社事書』などを御覧になり、多くの御下問を戴きました。

その後、来賓室で御休憩をとられ、同室にて出光館長、大和館長代理、宮司、補助説明の学芸員三名との御懇談が行われました。

出光館長、宮司をはじめとする関係職員がロビーに整列して奉送申し上げる中、「今日はどうもありがとう。」と笑顔でお声をお掛けになりながら、午後三時四十分に美術館を後にされました。

御観覧品

品名	種別	所有
宗像三女神画賛		出光美術館
宗像三社縁起三巻		宗像大社
滑石製子持勾玉	国宝	宗像大社
有孔貝製品	国宝	宗像大社
双頭龍文鏡	国宝	宗像大社
三角縁魚文帯神獣鏡	国宝	宗像大社
三角縁魚文帯神獣鏡	国宝	宗像大社
半円方形帯方格規矩鏡	国宝	宗像大社
内行十花文重弧鏡	国宝	宗像大社
六獣帯鏡	国宝	宗像大社
七獣帯鏡	国宝	宗像大社
半円方形帯画像鏡	国宝	宗像大社
硬玉・碧玉・水晶・雲母片岩・滑石製勾玉及び滑石製棗玉、滑石製臼玉	国宝	宗像大社
車輪石、石釧、硬玉製勾玉、滑石製棗玉、碧玉・滑石製管玉	国宝	宗像大社
ガラス製玉類	国宝	宗像大社
滑石製臼玉	国宝	宗像大社
鉄矛	国宝	宗像大社
金銅製矛鞘	国宝	宗像大社
金銅・銀製刀装具	国宝	宗像大社
瑪瑙玉	国宝	宗像大社
真珠玉	国宝	宗像大社
金銅製杏葉付辻金具、金銅製辻金具、金銅製鉸具付杏葉	国宝	宗像大社
金銅製帯金具	国宝	宗像大社
鉄製鞍金具（覆輪・磯金具）	国宝	宗像大社
鉄地金象嵌鞍金具（覆輪・磯金具）	国宝	宗像大社
金銅製雛形細頸壺	国宝	宗像大社
金銅・鉄製雛形円板	国宝	宗像大社
金銅・鉄製人形	国宝	宗像大社

『宗像大社国宝展』展示風景

『宗像大社国宝展』展示風景

■出光美術館

昭和 41 年、出光コレクションを展示する美術館として東京都千代田区丸の内に開館。皇居のお濠に面した帝劇ビルの 9 階に位置し、ビルのワンフロアであることを感じさせない独特の空間を持ち、日本の書画、中国・日本の陶磁器など東洋古美術を中心に展示を行っている。

金銅製香炉状品	国宝	宗像大社
須恵器大甕	国宝	宗像大社
須恵器長頸壺	国宝	宗像大社
土師器壺	国宝	宗像大社
須恵器器台	国宝	宗像大社
須恵器高坏	国宝	宗像大社
須恵器埦	国宝	宗像大社
須恵器高皿	国宝	宗像大社
須恵器有孔土器（坏・坩）	国宝	宗像大社
唐三彩長頸瓶片	国宝	宗像大社
三彩長頸瓶		東京国立博物館
金銅製龍頭一対	国宝	宗像大社
源頼朝請文案	重文	宗像大社
源頼朝書状		宗像大社
宗像大菩薩御縁起	重文	宗像大社
宗像宮創造記	重文	宗像大社
石造狛犬一対	重文	宗像大社
問注所執事・奉行人連署問状		宗像大社
案沙弥浄恵（宗像氏業）請文案	重文	宗像大社
阿弥陀如来図（宗像大社阿弥陀経石拓本）		出光美術館
阿弥陀経石拓本		宗像大社
色定法師一筆一切経および仙厓筆敬頌文		出光美術館
色定法師一筆一切経および仙厓筆色定法師良祐伝		出光美術館
宗像大神宮神官・僧官・御灯衆等連署起請文	重文	宗像大社
宗像社事書	重文	宗像大社
三十六歌仙図扁額　三十六面		宗像大社
福岡藩第三代黒田光之		宗像大社
剣 附拵 福岡藩第三代藩主黒田光之奉納		宗像大社
太刀　福岡藩第十代藩主黒田斉清奉納		宗像大社
六波羅書下	重文	宗像大社
六波羅施行状	重文	宗像大社
西園寺実氏政所下文　建長元年	重文	宗像大社
関東御教書　建長二年	重文	宗像大社

秋季大祭に先立ち 沖津宮御神璽迎え斎行

十月一日のみあれ祭に先立ち、去る九月九日、沖津宮の御神璽をお迎えする沖津宮神迎え神事が厳粛に斎行された。

前日、高向宮司以下神職三名が大島へ渡島、午後五時より明日の渡航安全祈願祭を斎行し、参籠。翌日の神事に備えた。

晴天の当日早朝、御座船となる「海栄丸」（船長・中村真一）に「国家鎮護」の大幟、「御長手」と呼ばれる紅白の吹流し、さらには、「波切り御幣」が船首に立てられ御神璽をお迎えする準備を整え、午前七時、神職に加え、沖・中両宮奉賛会沖西敏明会長以下役員、沖・中両宮翼賛会員の総勢十七名にて大島港を出港。快晴、穏やかな海上を進み、同八時過ぎには無事沖ノ島へ到着した。

到着後、直ちに海中にて禊を行い、身を清め、沖津宮本殿にて出御祭を斎行。御神璽を捧持し、先導が祓いをしながら参道を下り、御座船に奉安し沖ノ島を後にした。

午後一時、大島へ入港、多くの島民が沖津宮の神様を波止場までお迎えに集まるなか、大島駐在の先導により中津宮まで陸上神幸。同一時三十分入御祭が斎行され滞りなく納められ、十月一日を待つばかりとなった。

第2回 氏子会総代総会

九月十八日、本年度第二目となる氏子会総代総会が置鮎会長以下九十三名出席の下、清明殿にて開催された。

神宮並皇居遥拝、国家斉唱、敬神生活の綱領唱和、会長・宮司・来賓である衆議院議員宮内秀樹氏のご挨拶をいただき議事へと入った。議事では置鮎会長が議長に選出され、秋季大祭を中心とした議案の説明が各担当者よりあり、原案通りに承認いただいた。

秋季大祭氏子奉幣使においては、旧福間町地区より選定いただき、城野正雄氏（福間地区四角）にご奉仕いただくことが承認された。奉幣使は祭典前日の一日に神社にて斎泊の上、二日祭にご奉仕いただく。

秋季大祭斎行にあたり、氏子の皆様には、海上神幸に始まり、様々にご協力いただいている。宗像に秋を告げる一連の祭事に、神社も氏子の皆様と一丸となり本年度の秋季大祭を迎えたい。

衆議院議員宮内秀樹氏より来賓挨拶

時満ちて道ひらく

造営日記⑪

辺津宮本殿の屋根葺替えは概ね終了し、塗装は職人を増員して作業しています。今回補助事業としての本殿・拝殿修復工事に併せ、間にある渡殿（文化財未指定）も修復しております。

縁板の漆が塗り終わり、取り外して修繕していた高欄が取り付けられました。取り付けられた高欄は、これから漆を塗ります。

■本殿修復
縁板の木地を削って、平らにしています。この後、漆を塗ります。

■防災事業
防火水槽には改めて防水加工を施し、継続して使用します。

■渡殿修復
屋根が解体されている状況です。参拝者の方々から奉納して頂きました「さわら板」により新たに葺かれます。

釣川で川くだり大会開催

～安全祈願祭に出向～

市内のコミュニティなど二十一団体で構成される宗像・沖ノ島世界遺産市民の会が九月七日、手作り筏（いかだ）で玄海中学校前からさつき橋までの釣川を下る大会が開催され、当大社神職が出向し安全祈願祭を執り行った。

釣川は、入り海で古代から近世にかけて舟が行き来し、「みあれ祭」の起源である中世の「御長手神事」では、海から当大社（辺津宮）まで釣川を舟で上っていたとされている。この釣川を手作りの筏（いかだ）で下り、宗像の歴史に想いを馳せてもらおうと、今回初めて企画された。

当日は、快晴で強い日差しの中、十チーム三十九人が参加するなか、神職が筏をお祓いし、各チームがスタート。趣向を凝らした筏で約七五〇mを力あわせて筏を漕ぎ、沿道から「がんばれー」などの家族や仲間の声援の中、全筏が無事ゴールすることができた。

玄海中学校では、筏競漕（きょうそう）として恒例行事となっているそうで、参加者や応援の方には卒業生もいて、当時の思い出話に花が咲いていた。

九州式内社顕彰会 巡拝記
「隠岐・出雲」巡拝記

九州式内社顕彰会（会長＝当大社宮司）は、八月二十～二十二日にかけて島根県「隠岐・出雲」の古社を巡拝した。

式内社（しきないしゃ）とは、平安時代の法令集「延喜式」の神名帳に記されている神社を指し、当時篤い信仰を受けた古社ではあるが、時代が経つにつれ、現在では名も知れず衰退したお社も多い。

今回訪れたお社は、美保神社（島根県松江市）、玉若酢命神社・水若酢命神社・伊勢命神社（以上、同県隠岐郡）、出雲大社（同県出雲市）、また式内社ではないが壇鏡神社（同県隠岐郡）の六社を参拝させていただいた。

それぞれの神社に特色があるが、美保神社の氏子組織は、古くからの形態が残っており興味深かった。氏子の中から祭祀に関わる人が数人選ばれ、一年間真夜中に海中で禊をして神社にお参りする「日参」をおこなう。その姿を他人に見られたら穢れたとして再度禊からやり直さなければならない為、町中の人は、カランコロンという下駄の音が聴こえたら身を隠すという。他にも様々な神職でさえも知ることが出来ない秘儀が氏子に伝わっている。

久美漁港にて説明を受ける

現在、韓国によって不法占拠されている竹島は、隠岐郡隠岐の島町に属している。今回、同町の「久美」という地区を訪れた。小さな漁港だがこの地区が竹島の漁業権を持っており、往時には、この地区の人が竹島近海で漁業を行っていた。地元の人に話しをきくと、小船で沖合いまで出て、大型船に乗り換えて竹島にいっていたという。また全国的な問題でもあるがこの地区も高齢化、過疎化が進み限界集落といっても過言ではないとも仰っていた。

今回の巡拝会も神話に基づく古い歴史を堪能する魅力に満ちた旅であったが、加えて竹島の事など国境を意識させる貴重なものとなった。

美保神社

宗像市中学生職場体験事業
玄海中学生三名が巫女を体験

九月八～十二日五日間、宗像市立玄海中学生三名が当大社にて職場体験学習を行った。

職場体験学習は市内七校の中学校二年生全員を市内の事業所に振り分け、社会体験を行うことで社会における自主性、協調性、責任感を学ぶ取り組みである。

期間中、主に神社の顔である授与所での社頭奉仕を体験。袴姿で巫女の指導を受けながら参拝者に対して御守り等の授与を行った。最終日には、体験期間中の素朴な疑問などについて意見が交換された。

体験学習において、これからの社会人として役立つ事が一つでも得られたなら今回の研修の意義があったと思う。これからの活躍を心より期待したい。

（続）海の寄物 293

いしいただし

佐世保を訪ねた日は梅雨明けで、晴天だった。東山の海軍墓地は午後からだったが、日差しが強烈で墓地に人影はなかった。静寂の中、微かに線香の匂が漂っていた。

東山海軍墓地の沿革はパンフレットから引用したい。

『明治二十二年開庁した佐世保鎮守府は、当時東彼杵郡日宇村福石免と呼ばれていた現在地を買収し、墓地区画として整理し逐次殉職者の埋葬を始めました。大東亜戦争終戦までは海軍管理の国有地でありましたが終戦とともに荒廃の極みに達し、昭和三十四年五月、佐世保市が管理するところとなり「東公園」として整備されることとなりました。

墓地整備をすすめるため、昭和六十年四月「佐世保東山海軍墓地保存協力会」が、更には平成六年二月「社団法人佐世保東山海軍墓地保存会」が設立されることとなり、旧海軍七団体、海上自衛隊のOB会及び海上自衛隊などの協力により、ほぼ現況に復することになりました。

当初、全区画は甲、乙、丙、丁、戊の五区に分けられ、甲区から丁区は士官、兵等、戊区は合葬碑とされましたが、戦後建立されたものはこの通りになっていません。碑は合葬碑、個人碑に分けられ、合葬碑は戦前のものが十五基、戦後には四十五基が建立されています。個人碑は戦前のものが四一七基あり、その中には陸軍兵士三名、ドイツ水兵一名の墓も含まれています。平成十五年五月には「拝殿」に向かって左側に旧海軍戦没者、並びに海上自衛隊殉職隊員の慰霊顕影の碑として「海の防人之碑」が建立されました。

現在、この海軍墓地には佐世保鎮守府管内（九州、四国、沖縄）の十七万六千余柱と共に、海上自衛隊殉職隊員（佐世保警備区管内）の御霊が祀られています。慰霊祭は各艦船、部隊ごとに執り行われていますが、五月二十七日には「日本海海戦記念式典」八月十四日には「お盆供養行事」秋には佐世保市主催の「戦没者追悼式」が毎年盛大に開催されています。また、今日では列国海軍等武官の弔問の対象施設として献花がなされています。

朝日を背にここ天神山から眺める佐世保港の景観は大変素晴らしく園内は常に清掃され、供花の絶えることがありません』

敷地面積は約二万八千平方メートル（八、七六三坪）、園内には東郷平八郎元帥のブロンズ像、戦艦金剛、重巡足柄や羽黒、空母飛龍、加賀の慰霊碑、沖縄特攻の巡洋艦矢矧もある。佐世保鎮守府潜水艦合同慰霊碑の上には石造りの潜水艦がのっている。清国戦艦の定遠の砲弾の門柱や砲や弾などを配置したところもある。

東山海軍墓地

海の防人之碑

ますらをや
母なる港　この丘に
とはの眠りに
つくぞかなしき

第44回 西日本菊花大会のご案内

毎年、11月1日から開催される菊花展。九州各県、山口の菊花愛好家から出品された様々な菊の花約3000鉢が境内に展示され、西日本一の規模を誇ります。

◆会　期　平成26年 11月1日(土)～23日(日)
◆時　間　終　日
◆会　場　宗像大社境内
◆拝観料　無　料

第六三八回 宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日〆切

宗像市　池田　森　龍子
古壁に脱け殻あずけ秋蝉は何処に啼くや雨降り止まず
評 秋蝉は油蝉の異称。空蝉を見てその主を案じる作者。四句の啼くは鳴くに。

宗像市　日の里　石松　弘次
建ち並ぶ団地の窓ゆ洩れる灯の同じ明るさひとつとしてなし
評 発見の歌。それぞれに違う灯の色の窓の奥にある暮らしを思う作者だろう。

作福津　市星ヶ丘　佐々木和彦
先達のうたに刺激をうけながら後夜の灯火にこの世を詠う
評 歌に夢中になって深夜まで詠み続ける作者。古語の後夜が効いている。

宗像市　田久　巻　桔梗
百薬の長とも言ふぞこのいっぱい無精ひげくらゐにはなるべし
評 お酒が効いて髭の伸びが速くなるのか、酒好きな作者のユーモアのある一首。

うきは市　浮羽町　向　則正
生まれ家の消へてしまひし故里の小さき駅に訛りききをり
評 啄木の本歌取りか。訛りに耳を傾ける作者の望郷の念が切ない。

北九州市　八幡西区　豊田　光子
工廠にて受けし爆片傷痕の今も癒えずに要介護受く
評 戦時中に受けた傷痕を見るたびに、戦争の恐ろしさを思う作者の記憶は貴重。

北九州市　門司区　北野カズミ
盆おどり「浴衣音頭」の輪のなかに子らの袂もひらひらゆれる
評 盆踊りの子供たちの袂に注目したのが良い。楽しい歌。浴衣音頭も効いている。

宗像市　多禮　早川　祥三
鬼百合や素肌削がれる草熱く無縁墓にも供物のありぬ
評 夏の墓地の歌か。二句が少し分かり難いが〈素肌傷める〉としては。

宗像市　田久　井上　光
動画にて初めてまみえし東京の曾孫稀帆ちゃん眉目佳き女の子
評 曽孫を動画で見た作者の笑顔がみえる。二句〈～まみゆ〉と二句切れにしたい。

宗像市　日の里　大和美由紀
爽やかになりたる今朝は庭に来てくぐもる声で山鳩は鳴く
評 山鳩の描写が丁寧。初句は涼しさを出すと初秋らしい季節感が出るのでは。

福津市　若木台　山崎　公俊
港内をフェリーゆったり向きをかへ大島へ向く〈ゆったりだなぁ〉
評 内容と調べが合い、口ずさむと快い。結句のゆったりの重なりには再考を。

宗像市　日の里　秋吉　嘉範
にっぽん丸見送る瞳輝きて家族と手振る義兄末期ガン
評 義兄が外出を楽しむ姿に胸の詰まる作者。三・四句入れ替え〈末期がんの義兄家族と～〉に。

宗像市　宮田　山本　静子
けん玉を持ちて笑みいる小6の中島小夏の自然体見つ
評 中島小夏はけん玉の東九州代表選手。難しいが、知らない人にも分かるよう工夫を。

北九州市　戸畑区　田中ハツセ
庭に咲くバラにむくげにふようの花百合にべコニヤ月下美人も
評 作者の感情を言わずに花の名を並べるのみだが、喜びが表れている。

福津市　若木台　野間　精一
堅田川の土手に群落のハマボウ見むと杖つきて来ぬ
評 少し音が足りないが、三句以下〈ハマボウの咲く花見むと杖～〉としては。

福津市　花見が浜　佐藤　純一
優美なるスタイル誇り武器持たづ霊験灼孔雀明王
評 孔雀明王は毒を消す力を持ち孔雀に乗る姿という。四句・灼は平仮名で表記を。

◆選者詠
房実なる飯桐の枝をすきて見ゆ十月のそらの底知れぬ青
確かなる明日をもつごと白鷺ははばたき強く夕空に発つ

第六一一回 俳句作品集

宗像市　武丸　白土　凌一
夏の朝暑さ増さんや蝉時雨

宗像市　日の里　石松　弘次
紫陽花の新芽を挿して植えにけり

宗像市　多禮　早川　祥三
翁嫗の茅の輪に禊ぐ命かな

編集後記

このたび出光美術館「宗像大社国宝展」行啓という、昨年七月に続く慶事に浴したことは、誠に光栄なことであります。宗像大神の御神威を強く感じるとともに、当大社にて奉仕出来る歓びを深く感じております▼九月前半、郷里に帰省させて頂き、東京・同展を自分も見学してきました。常時、当大社神宝館で目にしているだけに、あまり期待はせずにまいりましたが、行ってびっくり。展示の仕方でこうも変わるものかと…同じものなのに、今まで見たことのない新しいものをみているようで、非常に良い刺激を頂きました。この特別展も残り僅か、またとないこの機会に足をお運び頂ければと存じます▼秋祭り（十月一～三日）、菊花展（十一月一～二十三日）御参拝の折には、神郡宗像の秋を感じて頂けれと存じます。（鈴）

10月祭事暦

1～3日　秋季大祭

【大島・中津宮】
8日　沖・中両宮秋季大祭
午前9時～
沖津宮大祭
午前11時～
中津宮大祭

15日　月次祭
午前10時～
高宮祭、第二宮・第三宮祭
午前11時～
総社祭、豊栄舞奉奏

17日　表千家献茶祭
午前11時～

発行所
宗像大社社務所・宗像会
住所　〒八一一―三五〇五
福岡県宗像市田島二三三一
電話　（〇九四〇）六二―一三一一（代）
発行人　葦津幹之
編集人　大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷　ゼネラルアサヒ
毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円